

旅立ちの日

～友愛の花の環におう～

3月1日(金)、第61回卒業証書授与式を挙行し、多くの保護者の方々が見守る中、仙名城南高等学校第9期生、特進科22名、探究科106名、科学技術科93名、計221名が臨みました。伊藤校長からは、「城南生 未来をつかめ！」とはなむけのエールが送られました。入学時はコロナ禍で様々な制限がかけられた高校生活でしたが、そんな困難にも負けずにがんばり続けた卒業生は、最後には青空応援団からの希望と勇気のエールを受けて、慣れ親しんだ学舎に別れを告げ、笑顔で旅立っていきました。



答 辞

外は私たちの門出を祝っているかのように雨が降り、八木山の植物や生物たちが春の訪れを感じさせてくれている今日。私たち仙名城南高等学校第9期生 総勢 221 名は卒業を迎えます。この仙名城南高校から旅立つ私たちのために、このように盛大な卒業式を挙げていただき、まことにありがとうございます。校長先生を始め先生方、在校生のみなさんに対しまして、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

3年前の4月、まだ新型コロナウイルスが猛威を振るう中、期待と不安で胸が張り裂けそうになりながら、この仙名城南高校の制服を身にまとい、私たち第9期生は入学しました。ここにいる3年生の中には中学校の卒業式が規模縮小の中で開催された人もいれば、開催自体されなかった人もいます。だからこそ、今こうして当たり前のように仲間たちと卒業式に参加できていることが何よりも嬉しく思っております。できることが当たり前ではなくなったコロナ禍。だからこそ、私たちは「当たり前」の尊さを実感した高校生活でした。

私たちが高校1年生の頃は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、ほとんどの時間をマスクと一緒に過ごしました。文化祭はもちろん、ほとんど全ての学校行事が中止となりました。その中で、私たちにとって初めての学校行事となったのが学年単位で行われた球技大会でした。先生方や保健委員会、体育委員会の協力の下、さまざまな感染対策が敷かれ、iPad越しに自分のクラスを応援するという状況の中での開催でした。そんな中でも高校生活初めての行事ということもあり、思いっきり盛り上がることができ、私たちの高校生活初めての思い出を作ることができました。

あっという間に1年が過ぎ、迎えた高校生活2年目。コロナウイルスの感染状況は決して収まるとは言えない状況でしたが、「当たり前」にできることが増えてきました。2年次の修学旅行では、2泊3日で和歌山、京都、大坂、神戸をめぐり、その地域の文化や歴史に直接触れる滅多にない機会を得ることができました。しかし、忘れてはいけないのはここにいる3年生全員が行けた訳ではないということです。出発前にコロナウイルスにかかり自宅待機となり行けなかった人。修学旅行先の関西でコロナウイルスにかかってしまった人、その濃厚接触者になり途中で帰路につかざるを得なかった人。私もこの中の

一人でしたが、やはり「当たり前」の尊さを実感した瞬間でもありました。

残りの高校生活が1年を切った中、コロナウイルスが第5類に移行されることが決まり、文化祭を始め多くの学校行事が規模縮小なく開催され、飲食物を提供する屋台も出店されました。4年ぶりの通常開催となった今年度のJフェスは大きなトラブルもなく終えることが出来ました。あの2日間の学校全体での盛り上がりは、今でも昨日のように覚えています。そして、つい先日の予餞会では、ほいけんたさんが私たちの門出を祝うため城南高校にサプライズで来ていただき、パフォーマンスを披露していただきました。この予餞会も4年ぶりに全校生徒が集まってのものです。この会を計画してくれた生徒会や先生方、そして協学会の方々、私たちのために準備をしていただき本当にありがとうございました。

私たち3年生が仙名城南高校で過ごした3年間は高く、そして多くの壁に阻まれ続けられましたが、そんな高校生活が今日終わりを迎えます。この3年間を通して私たちは困難に立ち向かう大切さ、そして「当たり前」の尊さを学ぶことができたと思います。この経験をこれからの人生の糧とし過ぎていきます。そして私たちが今日こうして卒業式を迎えることができているのはそばでずっと支えてくれ、味方でいてくれた家族。どんなに辛いときでも背中を押し続けてくれた先生方。励まし合い共に挑み続けてくれた仲間、後輩たちのおかげにほかなりません。心から感謝しています。本当にありがとうございました。最後になりますが校長先生はじめ先生方のご健勝と仙名城南高校の更なる発展を祈念し答辞とさせていただきます。

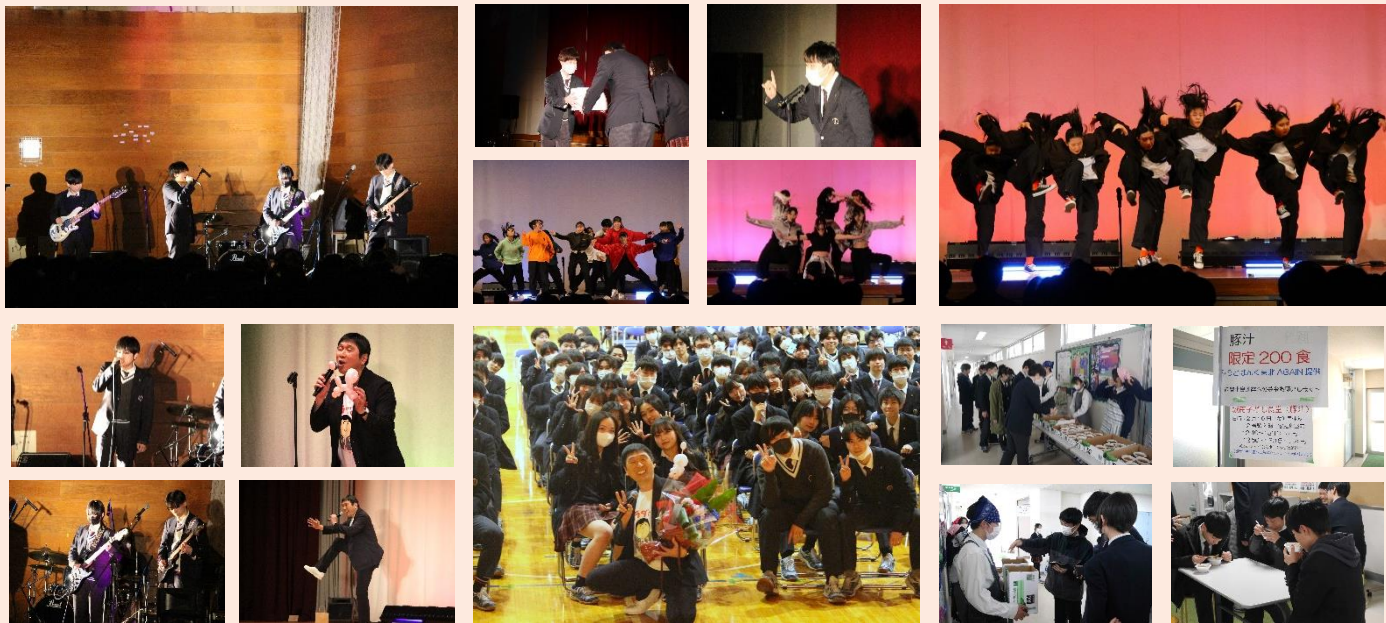
令和6年3月1日

仙名城南高等学校 第9期生徒会長 太田 瑛 翔



予 饞 会

2月16日(金)、卒業を間近に控えた3年生を送る生徒会主催の予饞会が行われ、4年ぶりに1,2年生も含めアリーナに集まりました。生徒会から3年生に記念品などを贈り、軽音学部やダンス部がステージ発表をしました。そして最後はサプライズでタレントの ほしいんた さんをお招きして、パフォーマンスを披露していただきました。物まねやトーク、歌を聴かせていただき会場は大盛り上がりでした。また、「フードバンクあがいん」様のご協力をいただき、料理部が豚汁を提供し、集まったお金は能登半島地震の義援金として被災地に送りました。



課 題 研 究 発 表 会 = 科学技術科 =

12月21日(木)にアリーナにて科学技術科3年生による「課題研究発表会」を開催しました。東北工業大学より6名の先生方を審査員にお招きし、科学技術科4コースの代表の6グループが4月から今まで授業でまとめた課題研究を発表しました。1,2年生も発表を視聴しながら科学技術科の目標としているモノづくり精神の発展やプレゼン力育成を再認識し深めることができました。受賞した上位の発表はつぎの通りでした。

○最優秀賞

情報通信コース:中鉢 真

「NFCタグを用いたサービス利便性向上」

デザインコース:大堀孝輔、川田悉来

「伝える手ぬぐい」



探 究 ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン = 普通科総合進学コース =



2月28日(水)に探究の授業で各グループが1年間、調査研究してきたまとめのポスターセッションを行いました。普通科総合進学コースの1,2年生が合同でセッションを行い、発表者は分かりやすい説明を心がけ、聴講者は質問や意見を発表したり付箋にまとめて貼付したりしました。東北工業大学や東北文化学園大学の先生方にもお越しいただき、一つ一つのプレゼンに対して講評もいただきました。先生方からは課題に対する結論の導き方や情報収集の仕方、プレゼンでの原稿の読み方や聴講する側の振る舞いなど細かいところまでご指摘いただきました。